

## バンドウイルカにおける玩具を用いた人的介入の効果検証

○土江純平, 落合拓夢, 山田玲菜, 近藤圭佑  
(マリンワールド海の中道)

マリンワールド海の中道では, 2023年10月から鯨類への玩具提供の内容および玩具による遊び行動(以下遊び行動)の有無を記録している。その記録から, 遊び行動が多い個体と, 少ない個体がいることが判明した。そこで遊び行動が少ない個体に玩具を用いた人的介入を行い, その効果を検証した。対象個体は1988年から飼育しているバンドウイルカ *Tursiops truncatus* (雌, 推定38歳)で, 2024年1-7月の期間, 遊び行動が最も少なかった。それまで遊ぶことがなかった玩具に対する脱感作を行い, 吻先で玩具を押す行動を形成したのち, トレーナーの手元まで玩具を押して運ぶ行動にサイン付けを行った。人的介入は1セッションあたり5-10分とし, 9月6日から開始して10月8日に回収動作が完成した。動作完成後も人的介入は継続した。効果検証は, 8月19日-10月25日の期間に計29回, 玩具の提供がある状態と提供がない状態で, それぞれ10分間の目視観察を行った。観察方法は個体追跡サンプリングとし, 30秒ごとの瞬間観察を行った。観察された行動をポジティブ行動, ネガティブ行動, ニュートラル行動に分類し, 行動変化を評価した。人的介入開始から遊び行動が見られるまでに1.5ヵ月を要したが, その後は頻繁に確認でき, 介入前と比べポジティブ行動の割合が増加した。また, 他個体の出産に伴う当該個体の収容プール変更による環境変化後に, 一時的に増加したネガティブ行動を玩具提供で抑制できた。以上より, 玩具を用いた人的介入は, 遊び行動が少ない個体に対して, 遊び行動を誘発する上で有効であり, 遊び行動が確認できた個体に対しての玩具提供は, 環境変化によるネガティブ行動の抑制にも有効であることが示唆された。